

目次

第十章 江戸時代

7

徳川家康（一五四二―一六一六）	7
支倉常長（一五七二―一六三二）	9
欧州人の南北アメリカ征服	10
島原の乱 宗門改めの開始（一六三七）	11
鎖国	11
河村瑞賢（一六一八―一六九九）	12
江戸時代の朝鮮	13
水戸光圀（一六二八―一七〇二）	16
元禄の生活改善	16
近松門左衛門（一六五三―一七二五）	17

井原西鶴（一六四二―一六九三）	18
Japan 漆器	20
徳川綱吉（一六四六―一七〇七）	21
松尾芭蕉（一六四四―一六九四）	21
与謝蕪村（二七一六―二七八四）	28
小林一茶（二七六三―一八二八）	29
新井白石（一六五七―一七二五）	30
徳川吉宗（一六八四―一七五一）	31
杉田玄白（一七三三―一八一七）	32
オランダ	32
欧州の科学の発達	33
農業の進展	34
関孝和（？ ―一七〇八）	35
石田梅岩（一六八五―一七四四）	36
山方蟠桃（一七四八―一八二二）	36

	本居宣長（一七三〇—一八〇二）	37	ジョン万次郎（一八二七—一八九八）	51
	頼山陽（一七八一—一八三二）	39	アメリカ人マゲドナルド （一八二四—一八九四）	
	光格天皇（一七七二—一八四〇）	40		
	中国、朝鮮と日本の儒学	41	ロシアの接触	
	江戸時代の教育	41	黒船来航（一八五三—一八五四）	52
	大黒屋光太夫（一七五一—一八二八）	42	吉田松陰（一八三〇—一八五〇）	53
	間宮林蔵（一七八〇—一八四四）	44	福沢諭吉（一八三五—一九〇二）	54
	高田屋嘉平衛（一七六九—一八二七）	45	長崎海軍伝習所（一八五五—一八五九）	55
	二宮尊徳（一七八六—一八五六）	46	ブロードウェイの行進（一八六〇）	56
	十返舎一九（一七六五—一八三二）	46	ハワイ王室（一七九五—一八九九）	57
	華岡青洲（一七六五—一八三〇）	47	桜田門外の変（一八六〇）	58
	浮世風呂（一八〇九—一八一三）	48	生麦事件（一八六二—一八六三）	59
	良寛（一七五八—一八三二）	49	坂本龍馬（一八三五—一八六七）	60
	島津斉彬（一八〇九—一八五八）	49	高杉晋作（一八三九—一八六七）	61
	橘曙寛（一八二二—一八六八）	50	大村益次郎（一八二四—一八六九）	62

第十一章 明治から現代

65

- シュリーマン（一八三二—一八九〇） 63
- 孝明天皇（一八三二—一八六七） 64
- 『学問のすすめ』 80
- 廃仏希釈 82
- 岡倉天心（一八六三—一九一三） 83
- 明治鉄道の開通（一八七二） 84
- 新暦採用（一八七三） 85
- 勝海舟（一八二三—一八九九） 85
- 国語元年 86
- 明治翻訳語 87
- 伊澤修二（一八五一—一九一七） 88
- 教育勅語（一八九〇—一九四八） 90
- 上田万年（一八六七—一九三七） 92
- 文章日本語の成立 93
- 正岡子規（一八六七—一九〇二） 95
- 漱石の英語論 99
- 新渡戸稲造（一八六二—一九三三） 99
- 明治初年、日本の進む道 65
- 明治天皇（一八五二—一九一二） 66
- 東京遷都 67
- 徳川慶喜（一八三七—一九一三）と旧大名 68
- お雇い外国人 69
- 岩倉使節団（一八七二—一八七三） 70
- 東大は配電盤 73
- 大久保利通（一八三〇—一八七七） 74
- 伊藤博文（一八四一—一九一三） 75
- 西郷隆盛（一八二七—一八七七） 80

南方熊楠 (一八六七―一九四二)

100

徳富蘇峰 (一八六三―一九五七)

101

湯川秀樹 (一九〇七―一九八二)

102

鈴木三重吉の赤い鳥

103

ローマ字論者 かな文字論者

104

戦後の国語改革 (一九四六―一九五五)

107

皇室の和歌

108

漢字の位置の低下についての嘆き

109

第十二章 戦争

111

日本の戦争の時代の始まり

111

西南戦争 (一八七七)

112

日清戦争 (一八九四―一八九五)

113

義和団事件 (一九〇〇)

114

日露戦争 (一九〇四―一九〇五)

115

日比谷焼き討ち事件

116

明治軍国物語

117

軍人の地位の下落

119

昭和天皇の決断 (一九二八)

119

満州事変 (一九三一)

120

リットン調査団 (一九三三)

121

近衛文麿首相 (一八九一―一九四五)

122

日華事変と南京事件 (一九三七)

123

日独伊三国同盟

124

日米開戦詔勅

126

真珠湾攻撃 (一九四一年一月八日)

128

英領・香港攻略 (一九四一年十二月)

129

シンガポール陥落 (一九四二)

131

戦時中のアメリカの日本語研究と

131

日本の英語教育

悲食記 古川緑波

特攻隊

硫黄島の戦い

米・F・ルーズベルト大統領

(一九八二—一九四五)

戦艦大和

天皇蚩をご覧(一九四五年六月二〇日)

ポツダム宣言

満洲の状況

ルーズベルト、ヒトラー、スターリン

シベリア抑留の実態

玉音盤

戦争直後の日本負けっぷりのよさ

幣原喜重郎首相(二八七二—一九五二)

156 154 152 147 146 143 142 142 141 140 139 139 136 135

罪意識扶植計画

東京裁判

戦後の風潮

太平洋戦争をこう判断する

戦争の総括

あとがき

参考文献

166 164 162 161 160 159 158